

「フィンランドの教育から考えること」

経営学部 経営学科 澤 鈴世



渡航先：フィンランド共和国

滞在期間：3 週間

研究内容：教育大国で有名なフィンランド共和国の教育を調査し、日本の教育と比較する

✦はじめに：フィンランドを選んだきっかけ

最初はフィンランドがどこにあるのかさえ知らなかった私ですが、ある時にフィンランドが教育で有名であることを知り、興味を示すようになりました。もともと「海外」と「教育」には興味があったので、海外の教育に関する本を読んでいたのですが、たくさんを知っていくうちに「この目で確かめてみたい！」という気持ちが強くなりました。本にはフィンランドの教育についてたくさん書いていますが、現地に行かないとわからないこともあると思ったからです。

▼フィンランドで出会った生徒たち



✦この海外研修をする意味

図表からわかるように、フィンランドは学習達成度調査でどの分野も上位を独占しています。

▼図表 1 読解力・科学的リテラシー及び問題解決能力の平均得点の国際比較

	読解力	科学的リテラシー	問題解決能力
1	フィンランド	フィンランド	韓国
2	韓国	日本	香港
3	カナダ	香港	フィンランド
4	オーストラリア	韓国	日本
5	リヒテンシュタイン	リヒテンシュタイン	ニュージーランド

この事実を初めて知った時は、「フィンランドの生徒は、詰め込み式の教育で熱心に勉強しているのだろうな。フィンランドの学生は大変だな。」と勝手に想像していました。

しかし、フィンランドがなぜ教育で優れているのか気になり、いろいろ調べていくうちにフィンランドの教育システムは、私が想像していたものとまったく違うことを知ったのです。

「受けてみたフィンランドの教育」という本には、フィンランドは受験戦争というのがないこと・一つの学級は20人ぐらいで少人数制であるため一人ひとり質の高いサービスが受けられることなどが書かれていました。私は、日本の教育システムより自由なことが多いにもかかわらず、どうして学力世界1位なのか不思議でたまりませんでした。一方で、フィンランドの教育の秘訣を知ること、日本の教育がさらに良くなっていくのではないだろうかとワクワクする気持ちもありました。

日本の教育が良くなることで、最終的に日本の経済が良くなると私は信じています。

なぜならば戦後、経済が急成長を成し遂げることができたのは「教育」のおかげであると言われているからです。グローバル化・IOT化などが発展している現在日本の経済を急成長させるためには、「質の高い教

育]が必須となります。

以上の理由から、この海外研修は社会的意義のあるものだと考えます。

✦研究内容

私はフィンランドで知りたいことが2つあったので、2つのRQ(リサーチクエスチョン)をつくり、それらの答えを探するために調査しました。

RQ	Q1.日本とフィンランドの教育システムの違いは？
	Q2.フィンランドの学生は、なぜ語学力が高いのか？

●Q1:日本とフィンランドの教育システムの違いは？

調査した後、フィンランドと日本の違いをまとめると以下の表のようになりました。

 フィンランド	 日本
<ul style="list-style-type: none">・宿題が少ない・授業中の発言回数が多い・グループワークが多い・語学の授業は、話すのがメイン・学食が無料・教師の労働時間が短い (週に1・2回の休暇がある)・塾みたいなものはほとんどない・塾・部活がなく、さらに学校が15:00に終了するため、自由時間が多い(平均7時間)	<ul style="list-style-type: none">・フィンランドに比べて、宿題が多い・授業中の発言回数が少ない・先生が一方向的に話す形式・語学の授業は、読む・聞くがメイン・学食・給食は有料・教師の労働時間が長い (部活の時間なども含める)・塾がある・フィンランドに比べて自由時間は少ない

表からわかるように、様々な違いがあるのですがその中で今回のレポートでは、

「授業中の発言回数・形式」を中心に述べていきます。

(※語学の授業形式については次の項目 Q2 のほうで述べていきます。)

■ 授業中の発言回数・形式

フィンランドの学校を調査して、1番違いを感じたのは「授業中の発言回数・形式」です。

日本の授業形式(先生が一方向的に教えるスタイル)に慣れていて、当たり前だと思っていたので、フィンラン

ドの授業形式にはかなり驚かされました。

* 授業形式① : グループワーク・発言回数が多い !



フィンランドの中学校では、たくさんの授業を担当させていただきました

※授業を行うことがメインではないのですが、先生側からの要望があったので、授業を持ちながら調査させていただきました。

★写真では伝わりにくいですが、生徒たちは積極的に質問や発言をしてくれました。

フィンランドの授業形式は、日本のように先生が一方向的に教えるというよりは、**生徒自身が考えて生徒の力で答えを導いていくスタイル**です。

フィンランドの先生は、「It's easier to teach students than Japan.」とおっしゃっていました。

なぜなら、フィンランドの先生はほとんど教えることなく、生徒が答えを出せるようにアドバイス・ヒントを与える役目だからです。生徒が答えを導くまでの過程を見守っています。

【考察】

このようなスタイルをとることで、生徒は最後まで考える力(課題解決力)が身につく、将来有望な人材になっていくのではないかと考察しました。

「日本の生徒は、受動的だ。」とよく世間で言われていますが、生徒すべてに原因があるのではなく日本の授業スタイルにも原因があると考えています。

日本の授業スタイルをフィンランドのようにすることで、生徒に将来必要とされる大事な力が身につくだけでなく、先生の負担も軽減され、より質の高い教育ができると信じています。

現在、文部科学省でアクティブ・ラーニングが推奨されている傾向があるので、これからもさらにアクティブ・ラーニングを日本の教育機関(小学校・中学校・高校・大学・学習塾)に浸透させていくべきです。

* 授業形式② : 机上の空論で終わらせない !

フィンランドの授業は、先生から教えてもらった事に対して実際に手を動かして自分の目で確かめていくスタイルです。机上の空論で終わらせない授業スタイルに私は非常に感動しました。

日本で「百聞は一見に如かず」ということわざがあるように、このフィンランドの学習方法は非常に有効であるし、何より生徒が楽しみながら学習できると思いました。

▼生物学の授業の様子



生物学の授業を視察させていただきました

先生が最初にザリガニの体内構造を説明した後に実際に本物のザリガニを解体していきます。

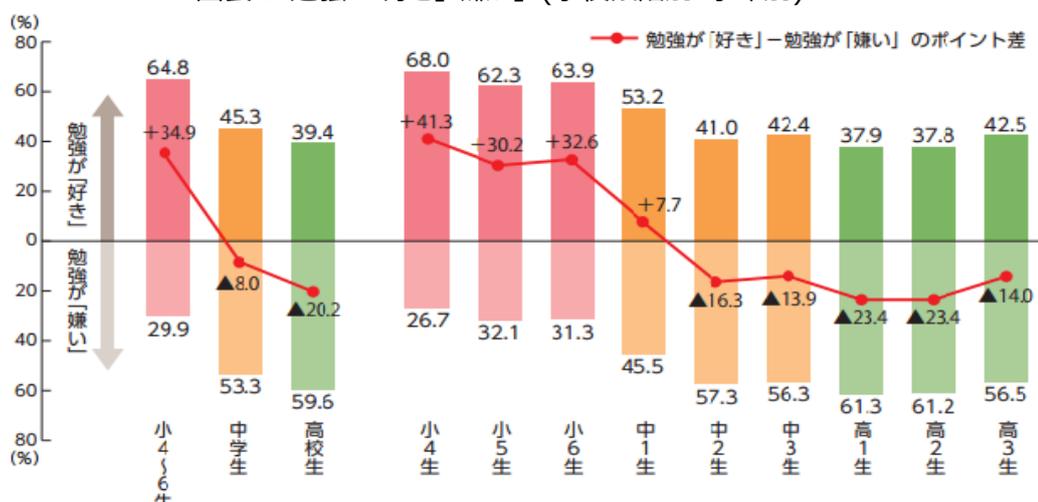
★初めて解体する生徒が多かったようで、すこし緊張しながらも、興味津々にザリガニを解体して学ぶ生徒の様子を見ることが出来ました。

【考察】

このようなフィンランドの学習スタイルを視察させていただいて、日本の教育について深く考える機会が多くなりました。最近では日本でも少しずつ教育に改革を起こす動きが見られますが、いまだに「詰め込み式教育」(暗記中心の教育)をする傾向が続いています。受験のことも考慮するとある程度は、暗記中心の教育が大事になってきますが、実際に手を動かし自分の目で確かめる学習方法も取り上げることで生徒は「勉強する楽しさ」に気づくことができ、最終的に効率的に受験勉強にも臨めるのではないかと思います。私は、高校の時に毎日通っていた塾の先生方の言葉がおっしゃっていた「いまやっている受験勉強は、社会に役立つ知識ではないから、受験が終わったとたん忘れていいよ。今だけの我慢だよ。」という言葉があまりにもショックで、悲しくて今でも忘れることができません。受験にしか生きない知識を、詰め込み式で学習してきた日本の学生は成績が良くても本来大切にしなければならない勉強する楽しさ・勉強できるありがたさを忘れかけているのではないかと思います。

以上のことからこれからの日本教育に、本来大切すべき学習する楽しさを実感できる工夫した授業を取り入れていく必要があると考えました。

▼図表 2 勉強の「好き」「嫌い」(学校段階別・学年別)



* おまけ : 高校の授業形式

今回のフィンランド研修では、中学生をメインに調査しましたが高校の方も視察だけさせていただくことができました。高校の授業もかなり印象的だったので、このレポートに記録します。

◎ フィンランドの高校の授業形式

- **特徴 1:**生徒がプレゼンテーションし、その内容を全員で議論していく形式
- **特徴 2:**みんなでゲームをしながら、語学を自然に身に付けていく形式



今から特徴 1・2 を詳しく述べていく。

■ 特徴 1: 生徒がプレゼンテーションし、全員で議論する形式

高校の授業を初めて視察させていただいたときは、一言で言うと衝撃的だった。

なぜならば、現在私が大学のゼミでやっているプレゼンテーションをフィンランドの学生はすでに高校のうちから始めていたからだ。

さらに衝撃的だったのは、母語であるフィンランド語を使わず流暢な英語でプレゼンテーションを行っていたことだ。フィンランドの学校は英語の授業以外にも、英語を使う環境を作り出している。

■ 特徴 2: みんなでゲームをしながら、語学を身に付けていく形式

▼ スウェーデン語を楽しく学ぶ生徒の様子



スウェーデン語を学ぶ高校生の様子です。グループを組んで協力しあいながら、ゲームを進めていきます。

先生は生徒のゲームの進捗状況を見て、たまにアドバイスをしていきます。

★ 高校生はみんな、自分専用のパソコンを持ち歩いています。

● Q2: フィンランドの学生は、なぜ語学力が高いのか？

フィンランドに来る前から、フィンランド人は英語ができることは知っていました。

しかし、来てからわかったのは英語だけではなく他の言語も問題なく話せるということです。

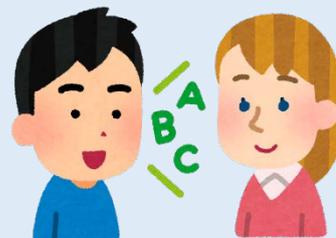
50人の高校生に「何か国語、話すことができますか？」というアンケートをしたところ、平均3か国語(母語は含まない)・最高7か国語話せるという結果が出ました。

私は、7年間学んできた英語を話すのでさえ精一杯だったので、フィンランド人がなぜ語学力が高いのか謎を解き明かしたいと思いました。

視察やインタビューをした結果、語学力が高い秘訣は以下の3つだと考察しました。

* 語学力が高い秘訣 *

- ① 語学の授業は、話すことがメイン！
- ② フィンランド人は、人前で異国語を話すことを恥ずかしがらない！
失敗を恐れない。
- ③ 私生活でも、英語にかかわる環境をつくっている！



■ 語学の授業は、話すことがメイン！

フィンランドの語学の授業は、生徒たちが英語でディベートをする形式が多かったです。

ディベートは「現在の社会問題」というテーマで、多くの学生が社会問題に関心を示している様子でした。

1つの教室に、育った環境・文化・価値観・考え方が違うさまざまな人種がいるので、ディベートでは多くの議論が飛び交っていました。

必死に自分の考えを伝えようとする学生の姿を見て、学ぶことが多かったです。

■ 人前で異国語を話すことを恥ずかしがらない！失敗を恐れない！

フィンランド人と日本人の国民性(シャイである点)は似ていると世間で言われていますが、英語を話す意欲に関しては、まったく違うということを感じました。

間違えることを恐れずに自分の思ったことを英語で伝え、反対意見があれば先生であったとしても必ず伝える姿が印象的でした。

私は、間違えることを恥ずかしがっては話す力は一向に伸びないことは十分理解していましたが、「この表現、間違っていたらどうしよう。」や「知っている友達の前で、英語を話すの恥ずかしい。自分の英語を聞か

れたくない。」と無意識に思ってしまう自分があります。フィンランドの学生の一生懸命話す姿から、気づかされる・学ぶ点は本当に多かったです。

また、フィンランドは異国語を話せない人の気持ちも理解できる生徒が多かったように思います。

異国からの転校生がうまくフィンランド語・英語を話せないとしても、多様性がある学生たちは優しく迎え入れて、言葉の壁から通じ合えないことがあったとしてもその人のことを理解しようと積極的に話しかけていました。

このように中学生・高校生のうちから多様性を受け入れる力があるのは、多くのフィンランド人は留学経験があるからです。

ある1人の学生は、「1年間、アメリカに留学をした経験があるから言葉を話せない人の立場がわかる。

言葉を上手く話せない辛さ・やさしさ、母国語を使えない悲しさを何回も感じたことがある。

アメリカでは、本当にたくさんの人に支えられたこそ、過ごすことができたからフィンランドにやってきた外国人には優しく接してあげたい。」とっていました。

また、普段の学校生活でさまざまな人種がいる環境にいることも1つの理由だと思います。

日本の学校では、絶対見ることのできない光景を見ることができたので本当に良い機会となりました。

▼教室に掲示してあったポスター



■ 私生活でも、英語にかかわる環境をつくっている！

語学力が高い秘訣は、意外なところで発見しました！

それは私生活です。わたしは、学校の先生の家でホームステイをさせていただきましたがホームステイ先の

高校生の息子が英語で表記されたゲームをしていました。また、ホームステイ先のおばあさんが見ていたテレビは、いつも英語表記でした。このことからわかるように、フィンランドの語学授業がすごいだけでなく、普段の私生活から、自然に英語を話す環境にいることも語学力が高い理由です。

私は今までずっと英語が話せないことを、日本の教育システムのせいにしていました。今回の調査から、英語を話せるようになるために、自分からできること・始められることはたくさんあることに気づくことができました。将来、携わる仕事をしたいと考えているので、普段の私生活でもっと英語に触れる機会を増やすように意識していきます！

✦感想:海外に行くか悩んでいる人たちへ！

今回の調査・研修は、本当にためになり私の人生に大きな影響を与えてくれました。

「本当に、行ってよかった！」と心から思っている私ですが、実は行くかどうかぎりぎりまですごく悩みました。大学3年生なので就活のことも不安でしたし、1人でヨーロッパに経験は初めてだったのでテロなど安全面・治安面もかなり不安でした。

たくさん悩んだ末、「今、やりたいことを思いっきりやらないと絶対に後悔する。何に関しても経験したことは絶対に無駄にならないから、思い切りやってみよう！」と思いました。

現地では、楽しいことばかりではなく悔しい思い・辛い思いをしたり、たくさんの失敗をしたり、授業の準備が大変でほとんど寝ていない日もありました。だけどそんな気持ちを感じたり、そんな日があったからこそ今回の研修・調査をより深いものにしてくれました。

そして、本当に素晴らしい出会いがありました。「あの出会いがなかったら、今の私がいなかった！」といっても過言ではないです。友達と海外行くのも楽しいですが、ひとりで思いっきり海外に行くのも様々な出会いがあり本当に魅力的です！人に助けってもらったこと・現地の人のかさは一生忘れることはありません。

なので、やりたいことが海外にあるひとは勇気をだしてぜひ行ってみてください！★

* * 最後まで見てくださり、誠にありがとうございました * *



※参考文献：文部科学省 HP (図表 1)/ベネッセ教育総合研究所 HP (図表 2)